

コープ災害ボランティア ネットワークニュース

【100号】2019年6月

東京都生活協同組合連合会
コープ災害ボランティア
ネットワーク幹事会
TEL：03-3383-7800

2018年度は、ボランティア養成講座第17期を開催、災害ボランティアの在り方や防災・減災の知識を学習した仲間があらたに17名増えました。今後も総会でみなさんと確認した方針に基づき幹事会は行動し続けていきたいと考えております。

さて、コープ災害ボランティアネットワークニュースは、2002年9月発行の第1号から、今号で100号の発行となりました。ニュースが100号を迎えましたので、深く関わっていただいている方々からコープ災害ボランティアネットワーク（以下CO災ボ）について思いを記していただきましたので、ご紹介致します。

竹内 誠（東京都生協連会長理事）

CO災ボニュース100号の発刊おめでとうございます。

この間、CO災ボは、歴代の幹事の皆様、また参加いただいている各生協の職員・組合員の皆様に支えられ、災害が発生したときに自分たちに何ができるか、何をしなければならないのかなどを考え、議論し、行動を積み重ねてきました。この間のCO災ボの活動に敬意を表します。

毎年日本各地で発生している大きな災害は、今後も無くなることはありません。CO災ボの体験や経験は、自分や家族を守るとともに、困っている方々にアドバイスもできる重要な取り組みであり、これからも防災・減災の知識を身に付けていただくことを多くの方々に広め、少しでも災害時の対応に役立てていただけるよう、進めていただくことを期待しております。



2004年10月災害ボランティアリーダー養成講座（第3期）

CO災ボ養成講座まち歩き（第16期）



福田 信章（東京災害ボランティアネットワーク）

100号記念、本当におめでとうございます。約17年間、発行し続けたニュースなんですね。何となく目を通していたニュースですが、ほかに災害ボランティア関連でここまで長く発行し続けているものはほとんどありません。2000年代前半といえば、阪神・淡路大震災の記憶が薄れてきた時期であると同時に、災害ボランティアという存在が社会の中で浸透し、災害ボランティアのリーダーやコーディネーター養成が求められていた時期です。そんな時期に始まったのが「リーダー養成講座」でした。当初は、被災地で活動するリーダー養成が目的でしたが、2011年度から、平时に地域で活動できる災害ボランティアを養成することを目的とした「コープ災害ボランティア養成講座」に一新しました。その修了生によって「コープ災害ボランティアネットワーク」が設立、2019年4月で会員数が500名を超えています。一人ひとりの存在は小さいかもしれませんが、その総体としての存在は、市民への安心につながるはずです。これからも組合員の気づき、生協の気づき、市民の気づきを促していく役割を担っていただければと大きな期待をしています。

田村 薫 (第1期生)

「CO災ボニュース」100号の発行に際し、東京都生協連様の長年のご尽力に心よりお礼申し上げます。CO災ボの第1期生、幹事会メンバーとして参加させて頂き、「CO災ボでの経験を、どのようにしたら所属生協や地域での活動につなげられるか」と話し合った時の風景を思い出しました。防災まち歩き、救急救命講習、徒歩帰宅訓練、防災訓練や、三宅島島民集会・年末おそうじ、1.17灯りのつどいのボランティア活動など、多くの貴重な体験と勉強をさせて頂きました。養成講座の受講者は18年間で500人を超えたと伺い、この間の自然災害や様々なボランティアに多くのメンバーが活動し、養成講座の経験が生かされたのではないのでしょうか。これからも登録メンバー協力のもと、CO災ボが益々発展していく事を祈念いたします。

(コープみらい・コープデリ連合会)



「灯りのつどい」炊き出し訓練 (2018年)

神山 民夫 (第17期生)

◆コープ災害ボランティア会員としての思い
私は2019年2月に講座を修了したばかりの17期生です。

これまで当会(全労済)からは50名超の職員が養成講座を受講し、受講者各自の災害対応スキルの向上に繋がってきたところですが、残念ながらその受講経験を職場や地域での活動、ネットワーク化として活かしていない状況にあります。今後は本業(=被災組合員への共済金お支払い対応)だけでなく、CO災ボ会員としての経験を活かして、防災力を高めるための研修やイベントができればと思っています。その意味では、3月に開催した「防災・減災フェスタ」は活動の試金石となりました。本業での活動だけでなく、災害発生前の活動や地域での活動という広い視野を持って取り組んでいきたいと思っています。

(全労済東京推進本部)

西 裕子 (第2期生)

阪神・淡路大震災を基にコープ災害ボランティアネットワークは発足し、三宅島噴火、新潟県中越沖地震、東日本大震災、熊本地震と自然災害が発生する度に東京都生協連や東京災害ボランティアネットワークの支援や協力を得て活動してきました。

発足当初からボランティアとしての活動意義や姿勢、防災対策について熱く指導して頂いた故生原職員には感謝しております。

“例え訓練といえども緊張感を持って真剣に取り組まなくてはならない”と激を飛ばした際には身が引き締まる思いでした。

多くの方の思いによりCO災ボ18年余りの活動は支えられていることを2期生として伝えたいと思います。

(東都生協・CO災ボ幹事)



第9回総会・交流会 (2011年) 昭和記念公園

第16期養成講座修了式



野崎 雅利 (第15期生)

人は誰も想定外な事件や事故、災害に遭遇した場合、パニック状態になり、頭の中が真っ白になり、体が固まったように動けなくなると思うが、訓練によって、パニック状態を最小限にして迅速に避難するなど動けるようになると思う。

最後の最後まで生きる望みを捨てず、何か助かる手段を実行するためには、日頃から事態対応を考え、体を動かしながら、想定内を増やし、想定外を減らすための訓練などを行ないながら、身につけるしかないと思う。

CO災ボの防災・減災活動の根っこにあるものは、助かるためにできること、準備し、あきらめないこと、これに尽きる。
(生活クラブ事業連合会・CO災ボ代表幹事)

◆お忙しい中、今号のために寄稿いただきました皆様に感謝致します。今後もCO災ボの目的を果たしていくために各生協の皆様と繋がって、この活動を進めて参りたいと思います。(CO災ボ幹事会・事務局)